

# ヘルスリテラシーと教育

国民の健康を維持するには教育と啓発が欠かせない。特に女性の健康教育は、病気を防ぐためだけでなく、女性がライフプランの設計において正しい知識に基づいた判断を行い、キャリアや社会生活における目標を達成できるようにするためにも重要である。

女性のライフステージに応じた適切な健康教育を導入することにより、女性はよりよいライフプランを立て、ワーク・ライフ・ヘルスバランスを維持することが可能となる。ひいては女性の活躍推進に寄与することが期待される。

## 女性の健康教育の導入によるヘルスリテラシーの向上と女性の活躍推進への貢献

### 現状

ビジネス社会における女性の活躍がますます期待される中、仕事と家庭の両立は大きな課題となる。しかし、世界の男女格差指数142カ国中101位の日本において、多くの女性がこの2つの重要な役割を果たすために必要な支援を受けていない。ライフスタイルの変化に伴い、現代の働く女性は、キャリア開発の機会と出産時期のバランスを図るとともに、子宮内膜症や子宮頸がん、骨粗鬆症など、ライフステージごとに生じる女性特有の健康リスクに対処しなければならない。79カ国を対象とした妊孕性に関する知識についての研究において、人間開発指数高位国の平均スコアは64.3%、低位国の平均スコアは44.9%であったが、日本のスコアは40%を下回り、高位国において最下位となった。<sup>1</sup> この妊孕性に関する知識の欠如は、重大な問題を示唆している。実に40%以上の日本人女性が、40代の女性の妊娠率は30代の女性の妊娠率と同等であると誤った回答をしている。<sup>2</sup> 思春期の日本人女性を対象とした別の調査では、82%の女性が月経異常や月経困難症は子宮内膜症などの病気が原因の場合があることを知らないことが明らかになっている。<sup>3</sup> また、このような知識の

欠如が、婦人科疾患や女性の健康問題を話題にすることや婦人科を受診することに対する社会的偏見の一因となっている。

### 現行政策

政府が女性の活躍を推進し、女性の晩産化が進む中、現行の教育政策はこのような現代社会のニーズに必ずしも対応していない。学校教育では多くの場合、健康教育、特に女性特有の健康リスクや妊娠適齢期に関する教育に十分な重点が置かれていない。

### 政策提言

- ライフステージごとに変化する多様な女性の健康リスクに対応できるよう、ライフステージに応じた適切な女性の健康教育を、大学を含む学校教育に導入する。
  - » 学校保健安全法において、女性の健康教育を導入する
  - » 文部科学省による「性に関する指導普及推進事業」を活用し、経口避妊薬の使用や不妊治療を含むリプロダクティブヘルスやライフステージに応じた女性の健康に関する教育プログラムを提供する。
  - » 女性の健康教育の実施においては、養護教諭や保健体育教諭だけではなく、婦人科医も重要な役割を果たすべきである。
- 女性の健康意識を向上させるとともに、女性がより適切なライフプランを立て、ワーク・ライフ・ヘルスバランスを向上させるための行動を促す。たとえば、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）」のガイドラインにおいて、企業や自治体が女性の健康増進に取り組むよう促す。また、労働安全衛生法において、企業による女性のヘルスリテラシー向上のための研修を義務化する。
- 婦人科疾患の予防に関する教育および婦人科受診や婦人科疾患に対する社会的偏見の低減に向けた教育を、女性の健康教育に導入する。女性の健康問題に対する社会的偏見を払拭し、家族、教育者、医療提供者、患者の間において女性の健康に関する開かれた対話が行われるよう教育を推進する。

### 企業への提言

- ライフプランや家族（出産）計画を加味した、キャリア開発のための従業員研修を実施する。
- 女性の健康に関する包括的な教育研修を男性従業員、女性従業員の両者を対象として定期的実施する。

1 Bunting L, Tsibulsky I, Boivin J. 2013. Fertility knowledge and beliefs about fertility treatment: findings from the International Fertility Decision-making Study. *Human Reproduction*, 28:385-97.

2 Maeda et al. 2015. A cross sectional study on fertility knowledge in Japan, measured with the Japanese version of Cardiff Fertility Knowledge Scale (CFKS-J). *Reproductive Health* 12:10.

3 Bayer Yakuhi, Ltd. Survey about women's health in 2,083 students aged 15 to 18 years. Nikkei Inc. October 29 2015. <http://www.nikkei.com/article/DGXMZ092975150Z11C15A000000/>

# 妊孕性に関する知識の国際比較

(Figure 1, Human Reproduction, 2013;28:385–97<sup>3</sup>)

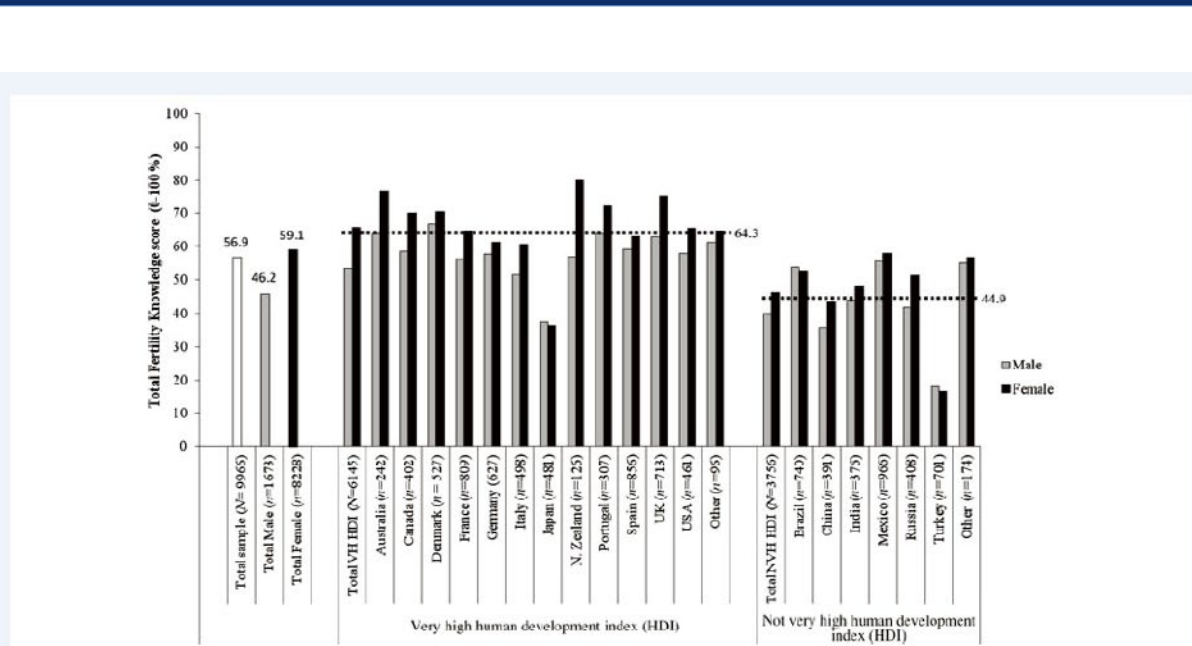
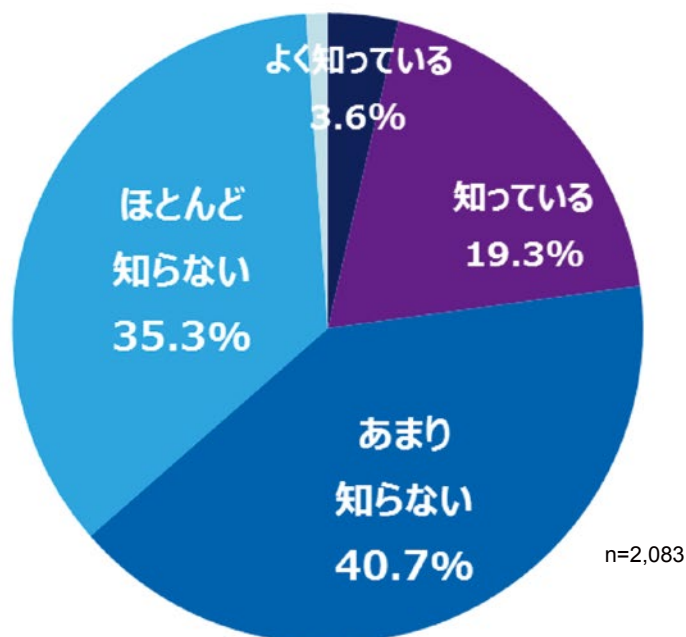


図1: 性別、人間開発指数(HDI)、居住国による妊孕性に関する知識の平均スコア  
 注: 「Other」は回答者100人未満の国。点線は人間開発指数高位国およびそれ以外の国のそれぞれの平均値

# 女性の健康に関するリテラシーの欠如

(高校生男女2,083人を対象とした調査<sup>5</sup>)

子宮内膜症は不妊症の原因になる可能性があることを知っていますか？



# 女性の健康に関するリテラシーの欠如

(高校生男女2,083人を対象とした調査<sup>\*5</sup>)

月経異常や月経困難症は子宮内膜症などの病気が原因の場合があることを知っていますか？

